
タイムトラベルしました

思夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タイムトラベルしました

【Nコード】

N3172Q

【作者名】

思夢

【あらすじ】

極普通の中学生、真咲がひょんなことからタイムトラベル？

ついた先は江戸時代！

幼馴染の竜弥と共に江戸時代を冒険することになったが……？

タイムトラベルしました

「あれ？猫？」

僕、ナカミヤ中宮 マサキ真咲。

極普通の中学3年生だ。

性格はちよつと気が弱いほう……だと思ふ。

勉強、スポーツの苦手な、いまどきのダメダメ中学生。

学校からの帰り道。

どこかから何かの鳴き声が聞こえて僕は路地裏に来ていた。

鳴き声の正体は僕に目の前にいる猫である。

「つれて帰るわけにも行かないよな。でも、おいて帰るわけにも…」

僕は動物が好きだ。

でも、僕のお母さんが動物が嫌いだから飼うことはできない。

「お、いたいた。まったく、いきなり走り出すから何処に行ったかと思つたぜ。」

タツヤ竜弥が息をはずませながらきた。

ニシジマ西島 竜弥。

僕の幼馴染だ。

勉強もスポーツも何でもできる。

所謂優等生である。

しかも、顔もいい上に喧嘩も強く、生徒会長なものだから皆に好か

れている。

僕とは正反対だ。

見た目だって、僕はカーテンのように長い前髪で背が低いのに対して、竜弥は髪は短く、背は学年トップだ。

「あ、ごめん竜弥。なんか鳴き声の正体は猫だったみたい。」

「猫？どれどれ、ちょっと触らして。」

達也はこっちに近づいてきた。

「可愛いなあ〜」

僕達は同時に猫に触った。

そのとき

目の前が真っ白になった。

「うわっ！何だ?!」

「眩しい……」

そこで意識を失った。

*

*

*

「……………咲、真咲！」

誰かが僕の名前を読んでいる。

「オイ、いい加減起きろ！真咲！」

目を開けて焦点を合わせる。

「竜……………弥……………」

「あ、やっと気がついたか。」

どうやら僕は倒れているらしい。

下にやわらかい土の感触……………

……………！？

僕は飛び起きて辺りを見回した。

「え？ここ、何処？」

なんと回りは木がたくさんあった。

「山？森？でもなんで？さっきまで路地裏にいたよね？」

「さあな。俺も気がついたらここに倒れていた。」

「ええええええ！ここ何処おおおおお！？」

僕の叫び声が響く。

「真咲声でかい。もうちょっと冷静になれねえか？」

「なんで竜弥はそんなに冷静でいられるの？！普通ここは驚いてよ
「！」

「うーん。そうだな……。むしろなんか楽しそーだなーって。」

「お前の精神構造が羨ましいよ！」

「ってこんなところでツッコミ入れてる場合じゃない！
どこだよ、ここー！」

「貴様ら！何者？！」

「？！」

後ろから声がした。

声の主はというと……

「武士?!」

僕達が振り向いた先には刀に袴、武士のような格好をした男だった。

「え?何かの撮影?」

「バカ真咲。撮影は俺達を巻き込まねえよ。」

「ってことは……本物?!」

嘘だろ?こんな時代劇みたいなやつ出てくるなんて!

「とりあえず、逃げろ!」

竜弥が呆然としている僕の手を引っ張って、(むしろ引きずって)走り出した。

「待て!怪しい者!」

僕達は走りながら話した。

「ねえ、竜弥。何が起こってるの?!」

「そんなの俺が知るかよ!でも……」

「でも?」

「でも、侍や武士がいるのよりもさあ、俺達がこの時代に来ている
ほうが可能性高くねえ?」

「えっと、つまり?」

「だから。俺達がタイムトラベルしたってこと！」

「タイムトラベル?!」

「ああ。」

「じゃ、タイムトラベルをしたと仮定して、どうしてそうなったの?」

「なあ、真咲。タイムトラベルする前に何か変わったことあったか?」

「え……あつたけ?」

「どんな小さなことでもいいんだ!」

「あ!猫に触った!」

「それかもしれん!」

「それじゃ、あの猫に触れば……」

「元の時代に戻るかもしれないねえ!」

猫に障れば戻れるって何その漫画みたいな展開!?

ていうか、猫何処に行ったの?!

「待て!」

ヤバイ!

そろそろ追いつかれる!

「猫、いた!」

あの特徴的な模様、まさしくさっきの猫だ!

「それじゃ触るぞ?」

「「いっせーのでっ!」「」

僕はまた同時に猫に触れた。

その瞬間またあの光に包まれた。

*

*

*

ジリリリリリリリリッ!

「わあっ!」

聞きなれた目覚ましの音。
周りを見回す。
山も無く、竜弥もない。
僕の部屋に一人きりだ。

「え、まさかの夢落ち?」

「真咲ー!もう8:00よ!学校遅刻するわよ!」

「あ、はい！」

とりあえず学校へ行こう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3172q/>

タイムトラベルしました

2011年1月23日03時06分発行